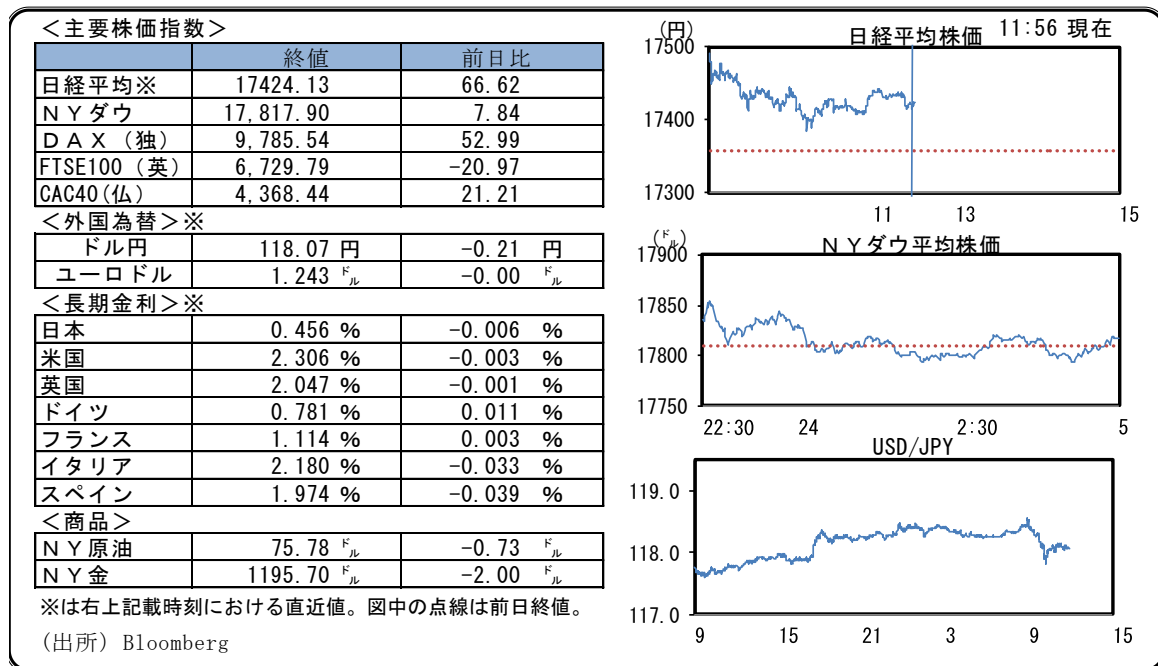


## タイミング良いガソリン価格下落

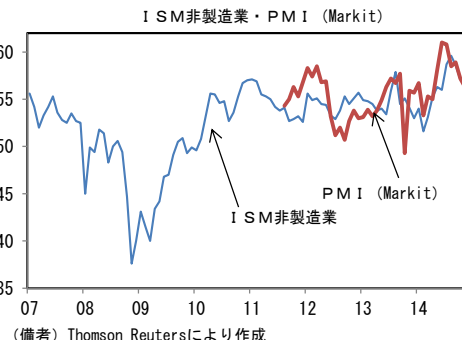
2014年11月25日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部  
藤代 宏一  
TEL 03-5221-4523



### 【海外株式市場・経済指標他】 ~サーベイ指標は区々~

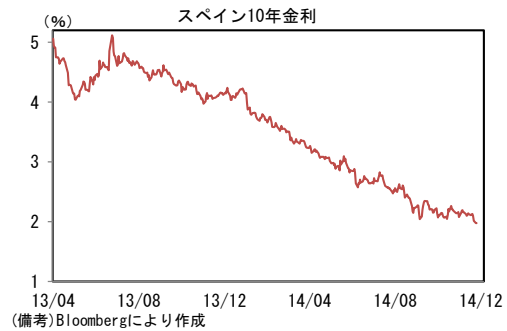
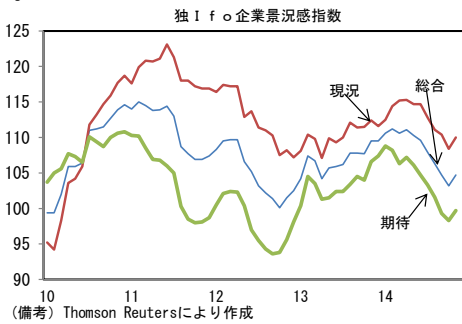
- ・ NYダウ平均株価は前日比+7.84ドルの17817.90ドルで取引終了。
- ・ 11月カンザスシティ連銀製造業活動指数は+7と市場予想(+6)を上回り、前月(+4)から改善。ISM換算でも53.0と前月から2pt改善した。
- ・ 11月ダラス連銀製造業活動指数は+10.5と予想(+9.0)を上振れたが、ISM換算では51.7と前月から3pt軟化。これまでに揃った地区連銀サーベイの平均は54.3と前月(54.2)からほぼ横ばい。10月ISMは59.0とやや出来過ぎの印象があったが、12月は地区連銀サーベイに鞘寄せする形で若干の軟化で見込まれる。
- ・ 11月サービス業PMI(Markit)は56.3と市場予想(57.3)に反して前月(57.1)から軟化。同指数は6月(61.0)をピークに低下が続いているが、肝心のハードデータは上向き基調を維持。総合PMIも56.1と前月(57.2)から軟化した。過去数ヶ月の下落を経てもなお高水準を維持していることに変わりはなく、悲観する必要性に乏しい。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

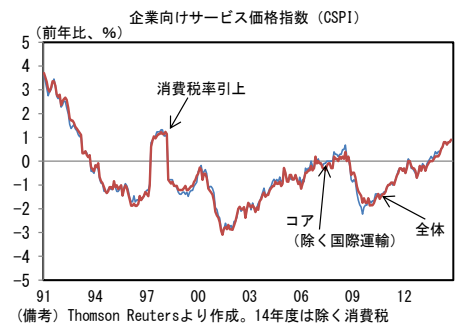
**【外国為替相場・債券市場・その他経済指標】～スペイン10年金利：遂に2%割れ～**

- ・前日のG10通貨はJPYが最弱となった一方、EURが最強、USDの強さは中位程度。USD/JPYは欧州時間に118を回復すると米国時間は小動きに終始。EUR/USDは週末のバイトマン総裁、ノボトニー総裁のタカ派発言を受けて反発。連休明け日本時間でUSD/JPYは一時118割れ。
- ・米10年金利は前日比▲0.3bpの2.306%。独Ifo指数の改善に米債売りで反応した後、2年債入札を通過すると買い戻し優勢。木曜日に感謝祭を控えていることもあり、狭いレンジでの取引。欧州債市場はコア国軟調、GIIPS堅調。スペイン10年金利は1.97%と遂に2%割れ。年初時点の4.15%からほぼ一貫して低下しており、信用コストの大幅低下が見取れる。経済指標は11月独Ifo企業景況指数が104.7と市場予想(103.0)に反して前月(103.2)から改善。内訳は期待(98.3→99.7)、現況(108.4→110.0)がそれぞれ上向き、全業種で改善がみられた。これまでに発表された11月サーベイ指標はZEW景況感指数が改善した一方、PMIが軟化。統計の性質上の違いもあり3指標揃っての改善にはならなかったが、ドイツ経済のダウンサイドリスクが後退しているのは事実だろう。先行きについても、目下のEUR安、株高、原油安が景況感改善を後押しすることで更なる景況感改善が期待される。早晚、ハードデータでも最悪期脱出が確認できるはず。



**【国内株式市場・経済指標他】～サービス価格：底堅い～**

- ・日本株はUSD/JPY上昇、米株高を引き継ぎ、高寄り後、もみ合い。
- ・今週末発表の日CPIについて当社は前年比+2.9%、消費税を除いたベースでは+0.9%への鈍化を見込む。8月以降は円安が進行している一方、原油を中心に資源価格が下落。先行きもエネルギー価格主導の減速が見込まれる。筆者は日銀の追加緩和発動の条件としてコアCPIの0.5%割れ(が濃厚になること)を目安としているが、現時点でそこには相当な距離がある。今月の結果は金融政策にニュートラルだろう。
- ・10月企業向けサービス価格指数(除く国際運輸)は消費税を除いたベースで前年比+0.9%と前月から0.1%pt加速。財物価を示す企業物価が急減速するのをよそにサービス価格は今次サイクルの最高を再度更新。97年度の消費増税時を除くと93年3月以来の上昇率に到達した。広告(+1.6%)、情報通信(+0.3%)、宿泊サービス(+5.1%)など為替・エネルギー価格変動の受けにくい業種が上昇。こうした動きがコアCPIの底堅さに繋がっているのだろう。



**【注目点】～タイミング良いガソリン価格下落～**

- ・今週のブラック・フライデーを皮切りに年末商戦が本格化する米国では、絶好のタイミングで株高、ガソリン安という追い風が吹いている。株価が連日最高値更新、ガソリン価格は7月から20%強も下落、前年比でも10%程度下落しており、実質的な減税効果を発揮。これを映じて消費者信頼感指数は既に7年ぶり高水準に到達済みで、順当にいけばクリスマス商戦は明るい。11-12月の消費データが発表される12月から1月にかけて市場では米経済に楽観的なムードが支配的となる。冬場らしい強気な展開を予想する。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。